



2017.3.18 SAT
15:00 START (14:30 OPEN)

LES FRÈRES ANTHOLOGY

「レ・フレールサウンド」のこれまで、そしてこれから
これまでの名曲たちと新曲をお届けする「レ・フレールの歩み、そして未来！」

レ・フレール アンソロジー

会場

アクティシティ浜松
中ホール

(浜松市中区板屋町111-1)

TICKET INFORMATION

チケット一般発売:2017年2月3日(金)
アクティシティ浜松 友の会先行予約:1月29日(日) 11:00~

【全席指定】¥5,000(税込)

3歳以下1名まで保護者膝上無料、4歳以上または座席が必要な場合要チケット。
公演に影響が及ぶと判断された際にはご注意ください。ご退席をお願いする場合がございます。

お問い合わせ:ジーコーポレーション 0561-63-4560(平日10:00~18:00)

- 主催:静岡新聞社・静岡放送 / ポラリス・アルファ
- 後援:(公財)浜松市文化振興財団
- 協力:ユニバーサル ミュージック / ワイルドボア

レ・フレール公式サイト <http://lesfreres.jp/>



レ・フレールのコンサートでは「小さな頃から本物の音楽に触れ、心豊かに育って欲しい」との思いから、原則として年齢による入場制限を設けていません。0歳の赤ちゃんでも一緒にコンサートを楽しむことができます。公演中にお連れのお子様が騒いだり、泣き出したりする場合には、一度ロビーに出るなど周りのお客様にご配慮ください。親子でマナーを守りながら、コンサートを鑑賞することも子どもたちには知って欲しいと考えています。皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

レ・フレールが自身の楽曲をセルフレビュー。 自身の足跡をたどる未来への旅



4枚目のアルバム『4 -Quatre』のリリースツアーを終え、
さらに広がりや深みをみせる「レ・フレール サウンド」。

この「Les Frères Anthology ～レ・フレール アンソロジー～」では
彼らが楽曲をセルフレビューし、これまでの楽曲とともに新曲も発表。

レ・フレールの音世界、そして1台4手連弾の新たな可能性を、
全世代を巻きこむ圧倒的熱量のステージで体感！

斎藤守也(さいとうもりや・兄)と斎藤圭土(さいとうけいど・弟)の兄弟によるピアノデュオ。

兄弟ともに15歳よりルクセンブルク国立音楽学校に留学。ガーリー・ミューラー氏に師事し、クラシックピアノを学ぶ。コンポーザー・ピアニストとしてオリジナル楽曲の制作とライブを両輪に活動。故中村とうよう氏(音楽評論家)に「斎藤守也・圭土の音楽は、いま世間一般に流通するどの音楽ともまったく似ていない。」「(芸術新潮)2008年11月号」と評された独創的な楽曲とピアノプレイスタイル「キャトルマンスタイル」を兄弟二人で確立。2本の手では成し得ない演奏法を4本で探りながらできた、そのプレイスタイルは他に類をみない。

2002年9月3日、出身地である横須賀のライブハウスにおいて「レ・フレール(フランス語で「兄弟」を意味する)」として活動を開始すると、その斬新かつ繊細なプレイスタイル(1台4手連弾)、交響曲や器楽セッションを想起させるオリジナル楽曲、そしてライブパフォーマンスにより瞬く間に日本全国で「ピアノ革命」と話題となる。2006年11月8日にリリースしたメジャーデビュー作「PIANO BREAKER / ピアノ・ブレイカー」(Universal Music)はオリコンウィークリーチャートにおいてピアニストデビュー作歴代最高位を塗り替え、史上初のTOP20入りを果たし、さらにゴールドディスクを獲得。

これまでに、アクセル・ツヴィンゲンベルガー (Pf)、ハンク・ジョーンズ (Pf)、池宮正信 (Pf)、大江千里 (Pf) など共演、海外アーティストとのセッションをはじめ、オリジナル楽曲をベースとしてオーケストラやソロアーティストとの融合を行うなど独自のアプローチで「連弾」を追求している。

楽曲制作・提供では、テレビCM(ハウス食品「ソイチップス」/「フルーチェ」/ハウスウェルネスフーズ「C1000レモンウォーター」・八木木材産業「エビオス・ロングライフ」・YOUテレビ他)、舞台(宝塚歌劇作品「オネーギン」他)、映画(「4分間のピアニスト」)2007年ドイツアカデミー賞受賞作品イメージ楽曲、テレビ番組(TBS「はなまるマーケット」/エンディングテーマ)、JAL・ANAの機内放送に採用されるなど多方面にわたり、各界からの支持も厚い。

ジャンルを問わず、あらゆる年齢層を惹き付け、聴く人の魂を揺さぶる熱いオリジナルサウンドは着実に評価を高め、フランス・ベルギー・韓国でもメジャーデビュー (Universal Music) を果たし、ヨーロッパ各国・韓国・オーストラリアの主要都市などでツアーを開催。ピアノ一台で世界各国の聴衆を熱狂の渦に巻き込んでいる。

2012年11月21日には結成10周年を記念したライブ盤「Best of Live」(Universal Music)、2013年3月20日に「レ・フレール管弦楽団」(Universal Music) をリリース。これは2012年12月に「ニューヨーク・シンフォニック・アンサンブル(指揮: 高原守)」を招聘して行われた共演公演「レ・フレール管弦楽団」のライブ録音で、レ・フレール楽曲の新たな魅力を凝縮した特筆すべき1枚となった。2013年8月21日には斎藤圭土が「音楽家たち」(Universal Music)、同年11月6日には斎藤守也が「旅」(Universal Music) をリリース。これらは彼らそれぞれの楽曲をピアノ連弾以外のアレンジで収録、「コンポーザー・斎藤守也」、「コンポーザー・斎藤圭土」として発信したものである。2014年9月3日にはレ・フレールとして4枚目となるオリジナルアルバム「4 -Quatre」(Universal Music) をリリース。天野喜孝氏が描きおろした「キャトルマン」がジャケットを飾った。

2016年1月より新タイトルツアー「Les Frères Anthology」を全国で展開。2016年9月2日にはメジャーデビュー10周年を記念した「レ・フレール THE BEST」(Universal Music) をリリース。

結成時から続けている保育園や幼稚園での演奏活動や、災害復興を機にプロジェクト化した「こどもたちへの音楽支援活動」を全国各地で行うなど、次世代のこどもたちへの芸術文化発展にも大きな力を注ぎ、「レ・フレール」という唯一無二の音楽ジャンルを形成しながら世界に向けて発信し続けている。



レ・フレールの
最新情報メール
マガジン配信中！



公式サイトから
ご登録ください

about

LES FRÈRES ANTHOLOGY

この公演ではレ・フレールがいくつかのコンセプトにもとづき、自身の楽曲をセルフレビュー。そして、圧倒的なパフォーマンスで「レ・フレール名曲集」とも言うべきステージを披露します！

♪コンセプト例

CONCEPT セルフベスト

演奏予定楽曲：

「Boogie Back to YOKOSUKA」「On y va!」ほか

CONCEPT 日本

演奏予定楽曲：

「桜」「SAMURAI Funky」「琉球頌歌(新曲)」ほか

その他のコンセプトもどうぞお楽しみに！

*コンセプトと楽曲は変更の可能性があります。

プレイガイド

チケット一般発売：2017年2月3日(金)

アクトシティ浜松 友の会先行予約：1月29日(日) 11:00～

◎ アクトシティチケットセンター(窓口受付のみ)

◎ HCFオンラインショップ

<http://www.hcf.or.jp/>

◎ チケットぴあ(Pコード320-492)

☎0570-02-9999

お近くのセブンイレブン・サークルKサンクス・チケットぴあ各店舗でもお求めいただけます。

◎ ローソンチケット(Lコード43351)

☎0570-084-004

お近くのローソン・ミニストップ店頭での[Loppi]での直接購入・電話予約等もご利用いただけます。

◎ イープラス <http://eplus.jp/>

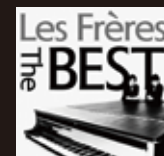
ネット・モバイルのほか、ファミリーマート[Famiポート]でのお申し込みもできます。

Les Frères 兄弟 BEST

メジャー・デビュー10周年記念！

かつてないスタイルの連弾で「ピアノ革命」として一世を風靡した兄弟デュオ、レ・フレール(斎藤守也・斎藤圭土)の魅力をあますことなく伝える初のベスト・アルバムが登場！

音楽界だけでなく様々なジャンルのアーティスト・クリエイターとのコラボレーションなど多種多様の活動で得たインスピレーションからうまれたレ・フレール独自の、そして唯一の音楽性、「レ・フレール サウンド」ともいうべき世界観を十分に堪能できます。



「レ・フレール THE BEST」

発売日：2016年9月2日(金)

価格：3,240円(税込) ※SHM-CD

発売：ユニバーサル ミュージック



レ・フレールは結成以来、活動のひとつとして「こどもたちとのコミュニケーション」に継続して取り組んでいます。

レ・フレールの音楽を心から楽しみ、ときに驚きつつも、感じるまま音楽にふれるこどもたちの姿は、レ・フレールの大きな支えであるとともに、いまなお音楽に対する姿勢を考える上で原点となっています。こどもたちとの触れ合いを通じ、レ・フレール独自のキャトルマンスタイルのベースが確立されていったといっても過言ではありません。今後もコンサートを通じて、次世代を担うこどもたちに芸術に触れることの大切さを伝えていきたいと考えています。